

令和8年度

各室課・各公所主要施策

- 1 学校教育室 (P. 1～3)
- 2 保健体育課 (P. 4～5)
- 3 県立生涯学習推進センター (P. 6)
- 4 県立図書館 (P. 7～8)
- 5 県立博物館 (P. 9)
- 6 県立美術館 (P. 10)
- 7 県立青少年の家 (P. 11～14)
- 8 県立野外活動センター (P. 15)

(様式 2)

令和 8 年度主要施策 (概要)

公所名 学校教育室

1 重点施策について (重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
岩手と世界をつなぐ人材の育成	小・中・高を通じた英語教育の推進や、コミュニケーション能力の育成を図る。
高校の魅力化	高校魅力化に取り組む民間団体との協働による高校魅力化及び小規模校の維持に向けて、魅力化アドバイザー等を配置し、市町村による地域連携コーディネーターの配置を促進し、地域連携コーディネーターの育成や活動支援を図るとともに、県立高校と市町村等関係機関との協働体制の円滑な運営を確立するもの。
いわての復興教育の推進	「いわての復興教育」副読本や伝承施設、県立図書館などを活用して教訓や経験を継承するとともに、自他の生命を守り抜く主体性を備え、復興・発展を支える地域の担い手の育成を推進する。 ★「いわての復興教育」推進校事業費の内陸部への拡充
こころのサポートの充実	スクールカウンセラー等の配置、「心とからだの健康観察」の実施、教員研修の3点を柱として、 幼児児童生徒のこころのサポート に引き続き取り組む。
いじめ問題・不登校対策	いじめ問題や 不登校対策 への組織的かつ適切な対処、自殺予防、関係機関との連携、児童生徒による取組の推進等、いじめ問題や 不登校対策 への対応に係る教員研修の充実や「学校支援チーム・いじめ問題解決支援チーム」の派遣等に取り組む。
就学前教育の充実	いわて幼児教育センターの3つの機能(「研修」、「支援」、「研究」)を生かし、公私立施設類型を越えて一体的に事業展開することで、幼児教育の充実と幼保小の円滑な接続を推進する。
共に学び、共に育つ特別支援教育の推進	共生社会の形成に向けた県民の理解に繋がるよう、県民を対象とした公開講座やサポーター養成講座を実施する。

2 事業計画について (重点事業 2 ～ 3)

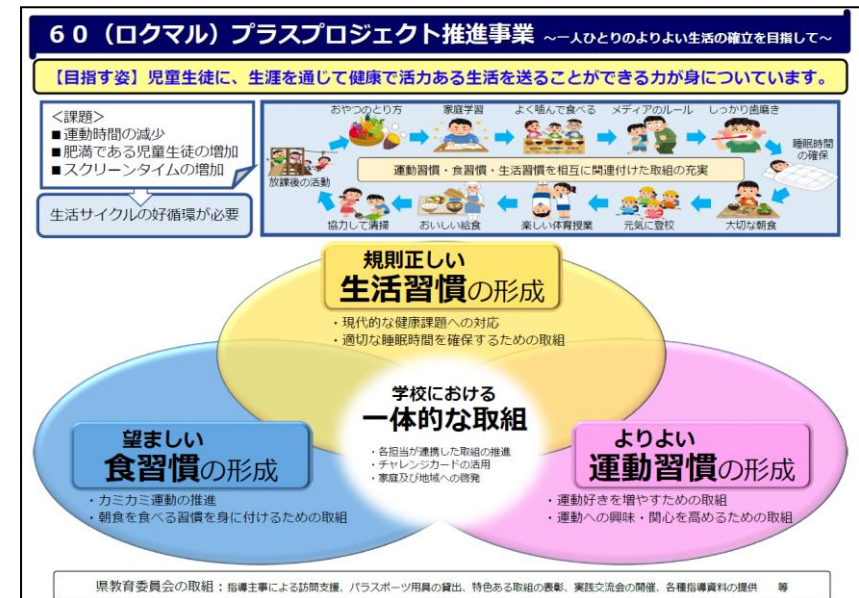
領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期 日・期 間	対 象・人 数
岩手と世界をつなぐ人材の育成	確かな学力育成加速化事業費 発信力強化による英語力向上事業	・イングリッシュワークショップ (オンライン型ワークショップ1回、参集型ワークショップ1回)	オンライン型:5/17 参集型:6/20	・CEFR A2 レベル(英検準2級相当)以上の英語力を目標とする児童生徒 ・オンライン 83 名、参集 63 名 計 146 名
	世界と岩手をつなぐ国際人材育成推進事業費 (国際室の事業費)	・北米派遣研修 外国語によるコミュニケーション能力の向上、本県の地域国際化、地域活性化、海外への発信等を推進するもの	10/14～10/22	・対象:高校生 ・派遣人数:7名

高校の魅力化	いわて高校魅力化推進事業	①協働体制推進事業 ・地域連携コーディネーターの配置・育成・活動支援 ・いわて留学の効果的な推進（いわて留学セミナー、いわて留学生サミット等の開催） ・県立高校の探究的な学び等の取組に対する伴走支援（探究共創交流会の開催） ・いわて留学の広報支援（WEB 配信サイト note の運営、各校の広報用品の整備） ②探究共創事業 ・地域等の関係機関と連携・協働した探究的な学びの推進 ・地元小・中学校等との連携の強化、取組の発信	通年	全県立高等学校 60 校
いわての復興教育の推進	いわての復興教育推進事業、学校安全総合支援事業	① いわての復興教育スクール ② ★防災教育スクール ③ 「いわての復興教育」サポーター派遣事業 ④ 学校防災アドバイザー派遣事業 ⑤「震災の教訓を未来に語り継ぐ」期間の設定 ⑥ 児童生徒実践発表会 ⑦ 岩手県防災教育研修会	①②③④ 2/5 まで ⑤ 3 月まで随時 ⑥ 1/25 ⑦ 6/2	①②対象：全公立学校 校数：のべ 134 校 ③④対象：児童生徒，教職員，保護者，一般等 校数：約 90 校 ⑦対象：管理職・主任層，市町村防災担当者等 人数約 176 名
こころのサポートの充実	SC、SSW の配置	学校、教育事務所等に配置し、重層的な教育相談体制を充実させる。	通年	全校種の児童生徒
	心とからだの健康観察	要サポート児童生徒を把握し、早期の支援につなげる。	8 月～9 月	全校種の児童生徒
	こころのサポートに係る教員研修	SCを講師として、こころのサポートに係る教員対象の校内研修会を実施。	5 月～2 月	全校種の教員
いじめ問題・不登校対策	いじめ問題・不登校対策に係る教員研修	・いじめ不登校特別研修（管理職・主任層、学級担任層）の実施 ・いじめ問題に係る事務所研修 ・学校等研修支援訪問	5 月 5 月～11 月 6 月～12 月	全校種の教員
	学校支援チーム・いじめ問題解決支援チーム派遣	・いじめ、不登校、問題行動等の生徒指導上の困難な課題に対する訪問支援 ・「いじめ対応・不登校支援等アドバイザー」による支援	通年	学校及び教育事務所・市町村教育委員会
	校内教育支援センター支援員の配置事業	・市町村の校内教育支援センターの支援員の配置に係る経費を補助する。	通年	市町村教育委員会

就学前教育の充実	いわて幼児教育センター運営費	・幼児教育施設職員を対象にした研修の充実 ・幼保小接続研修による架け橋期のカリキュラム作成・実施の推進 ・幼児教育専門員による訪問支援 ・市町村幼児教育アドバイザーの配置促進のためのいわて幼児教育アドバイザー認定制度運用開始 ・県指定研究事業	通年	幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、関係機関
コミュニティ・スクール	県立学校コミュニティ・スクール推進事業	学校運営協議会委員の配置に係る経費を補助する。	通年	全県立学校の委員
遠隔教育	遠隔教育による学びの機会充実事業	配信拠点から小規模高校7校への授業配信を行う。	通年	配信拠点、受信校7校
探究的な学びの深化	探究・STEAM教育推進事業	各地域の中核的な学校が取り組むSTEAMの視点からの探究的な学びの支援を実施。	通年	推進校9校
DX ハイスクール	高等学校DX加速化推進事業	ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化する高校等で、必要な環境整備を行う。	通年	実施校
共に学び、共に育つ特別支援教育の推進	岩手県特別支援教育サポーター養成講座	共生社会の形成に向けて、特別支援教育現場及び障がいのある幼児・児童生徒に対する理解を深める。 特別支援学校を特別支援教育に関する理解・啓発の場として活用することにより、教職員の専門性の向上を図るとともに、地域とともにある学校づくりを一層推進する。	7月頃～12月頃 全8回程度 R8は、盛岡視覚支援学校、花巻清風支援学校、久慈拓陽支援学校を会場校とする。	対象：学生や特別支援学校の保護者を含む県民 人数：1校あたり20～30名程度とする。
	県民向け公開講座（子どもの未来支援セミナー）	広く多くの県民が、障がい及び障がいのある方への理解を深める機会として公開講座を開催し、特別支援教育の推進による共生社会の実現につなげる。	9月～10月に実施予定（全2回）	対象：県民 人数：各回上限250名

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
・「よりよい運動習慣」の形成	・「60（ロクマル）プラスプロジェクト」の推進（継続） 児童生徒一人ひとりが自らの体力や健康に関心を持ち、生涯を通じて健康で活力ある生活を送ることができるよう、家庭や地域などと連携し、「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」の形成による健康の保持・増進に向けて、各習慣を相互に関連付けた一体的な取組を推進する。 【主な取組内容】 ■ 校内各担当が連携するための取組体制整備の推進及び既存の研修会の連携（通年） ■ デジタルチャレンジカードの活用 ・令和7年度に調達し、令和8年度から活用を開始 ・個人レベルでの振り返り（可視化・グラフ化）及び取組記録の蓄積が可能 ■ 指導主事による訪問支援 ・令和7年度及び令和8年度で全ての中学校への訪問支援を実施 ■ 60（ロクマル）プラス表彰 ・優れた取組を顕彰し、県内に広く共有 ・各校の応募が円滑に行われるよう、日常から情報を提供 ■ 実践交流会の開催（2月） ・各学校の取組の交流及び協議により、各校の取組を推進 ■ 県関係資料の活用
・「望ましい食習慣」の形成	
・「規則正しい生活習慣」の形成	



2 事業計画について（重点事業2～3）

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期日・期間	対 象・人 数
児童生徒の健康の 保持・増進に向け た対策の充実	・食育の推進 ・資質・能力向上研修	・食への理解促進や、家庭への望ましい食習慣等の啓発の実施 ・国の学校給食費の抜本的な負担軽減の取組による、保護者負担の軽減を通じた子育て支援に取り組む自治体の支援 ・関係部局と連携して、栄養水準の確保や地産地消の推進など、「給食の質の向上」に向けた取組の推進。 ・多様化・深刻化する子どもの健康課題に対応するための研修会を実施	通年	・全校種
適切な部活動体制 の推進	・自主的、自発的な活動の推進 ・学校部活動の地域クラブ活動への移行	・生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動を推進 ・令和7年12月、国が新たに策定したガイドラインを踏まえ、「岩手県における新たな学校部活動等に関する新たな方針」の策定 ・再発防止「岩手モデル」に基づき、部活動指導者による暴力や暴言及びセクシュアル・ハラスメント等の不適切な指導の根絶に向けた、効果的・実践的な指導者研修の推進 ・大会で勝つことのみを重視し、心身に過重な練習を強いることがないように、スポーツ医・科学の観点を踏まえた指導者研修の推進		・中学校 ・高等学校
安全でよりよい教 育環境の整備	・学校安全の推進	・学校施設等の安全点検による事故等の未然防止や、関係機関との連携による通学時の見守りや安全教育の推進 ・自転車の安全利用に向けた取組の推進、自転車乗車中におけるヘルメット着用の重要性や16歳以上の自転車の交通違反（いわゆる青切符制度）の周知 ・岩手県立学校熱中症対策ガイドラインを周知するとともに、熱中症対策を進め、児童生徒等の命や健康を守る取組を推進 ・ツキノワグマ被害防止対策のため、学校及び登下校の安全確保の推進		・全校種

(様式 2)

令和 8 年度主要施策 (概要)

公所名 生涯学習推進センター

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
1 学習情報提供・学習相談	・当センターWeb サイト「まなびネットいわて」に於いて、市町村学習情報のリンク、ボランティア情報提供、事例掲載等の 特設ページ開設 を行い、県民に有益な情報提供及び学習相談に努める。 ・「 一歩先、新たな視点 」を与える、すこやかマガジン（家庭教育中心）、マナビィマガジン（生涯学習・社会教育中心）の配信に努める。
2 調査・研究	・現代的な課題に即した「子どもの居場所」及び「地域学校協働活動」に関する調査・研究を推進し、事例やエビデンス等を可視化し、 説得力のある研究成果の周知・啓発 に努める。
3 研修の充実	・市町村担当者及び関係団体への参加促進を図るため、参集のみならず 必要に応じてオンデマンド・オンライン配信による研修を実施 し、本県生涯学習・社会教育関係職員の資質向上を図る。 ・今般、課題が複雑化していることを踏まえ、多様な主体との連携が必要なことから、 要項発出先を増やすとともに参加者同士の情報交換を位置付け 、つながりづくりを意識した研修の実施に努める。

2 事業計画について(重点事業 2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期日・期間	対象・人数
1 学習情報提供・学習相談	当センターWeb サイト「まなびネットいわて」の管理運用	・生涯学習情報提供システム（Web サイト）「まなびネットいわて」の充実及び利活用（R8 目標値 利用件数 5,150 件） ・特設 Web ページの利活用（青少年の家、教育事務所等に権限を付与し、事業周知、資料ダウンロード等を行う）	年間	・県・市町村・団体関係者 ・学校関係者 ・県民
2 調査・研究	調査・研究の推進	・子どもの「居場所」づくりと社会教育の課題（2 年目/2 年研究） ・教育振興運動の理念を共有したコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の在り方に関する研究（仮）（1 年目/3 年研究）	研究発表会 R9. 1. 28～29	生涯学習・社会教育、地域づくり関係者 100 人
3 研修の充実	関係機関の参加対象のさらなる拡大及びオンライン配信による研修の充実	・R7 の新たな研修会要項送付先を維持しながら、新規開拓を試みる。 ・資質向上を図る研修会の受講者増（R8 目標値 160 人） ・家庭教育支援に関する研修会の参加者増（R8 目標値 645 人）	年間	・県・市町村・団体関係者 ・学校関係者 ・県民

(様式2)

令和8年度主要施策(概要)

公所名 岩手県立図書館

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
(1) 図書館機能の充実	「岩手県公立図書館等振興指針」の改訂を踏まえた今後の望ましい図書館運営等の検討、公衆送信サービスへの対応や電子図書館としての充実等の検討、読書バリアフリー法を踏まえた図書の拡充
(2) 「I-ルーム」の利活用	震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」における児童生徒等の探究的な学びの支援、震災復興や本県の今日的な課題に対応した講演会・ワークショップ等(出張I-セミナーを含む)の開催
(3) 学習機会の提供と読書活動の奨励	企画展等による学習の動機付け、読書週間における標語及び手づくり絵本の募集、ビブリオバトル等による中高生の読書推進、学校やフリースクール等へのセット資料貸出と学校図書館への支援
(4) 市町村支援及び連携	市町村訪問、市町村立図書館等間の情報交換会の開催、協力貸出・レファレンス、図書館等職員を対象とした各種研修、グループウェア「市町村立図書館等ログイン」を通じた情報共有
(5) 今日的課題への対応	若年層や子育て世代等の居場所づくり

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
新サービスの検討と当館の特色を生かした運営	図書館サービスの向上	1 今後の望ましい図書館運営等の検討 2 図書館のDX化(公衆送信サービス導入、電子図書館の充実等)推進に向けた検討 3 「やさしい本棚」「りんごの棚」設置によるアクセシブルな資料の充実 4 多文化共生に係る資料の充実に向けた検討 5 中高生や子育て世代等の居場所づくりに資する取組の実施	指針改訂後 通年 通年 通年 通年	
	図書館資料の収集と活用	1 望ましい蔵書構成を目指した計画的な資料収集 2 各種事業やレファレンスによる資料の有効活用	通年	
	「I-ルーム」の運営	1 東日本大震災・自然災害・防災関連資料の収集 2 震災復興や今日的課題に対応した講演会、ワークショップ等の開催 3 震災・防災等関連資料セット貸出の実施	通年	

		4 東日本大震災津波関連資料等のデジタル化 5 いわて防災復興研究会と連携した防災意識の向上		
県民の読書活動の促進	読書週間による読書活動の促進	1 読書週間関連イベントの開催 (1) こどもの読書週間(全国) ≪4月23日～5月12日≫ (2) 読書週間(全国) ≪10月27日～11月9日≫ (3) 岩手の読書週間 ≪2月1日～2月14日≫ 2 読書推進標語及び手づくり絵本の募集・表彰 3 「読書をすすめるつどい」(表彰・講演等)の開催	左記期間中 左記期間中 左記期間中 6月～2月 2月13日	
市町村立図書館等への支援と連携の推進	市町村訪問等による支援	1 訪問による図書館運営状況の把握・助言・支援 2 市町村立図書館等間の情報交換会の開催(2回) 3 協力貸出、セット貸出、相互貸借等による支援	7月～10月 9月30日、10月15日 通年	
	市町村職員の育成	1 県図書館協会との連携による各種研修の実施 (1) 新任図書館長等研修会 (2) 初任職員研修会(オンライン配信・集合研修) (3) 北日本図書館大会岩手大会 (4) 中堅職員研修会(オンライン配信・集合研修) (5) 専門研修(中央開催・地区開催) (6) 図書館職員・図書館協議会委員合同研修会 2 図書館等職員による調査研究の共同実施(危機管理)	4月23日 6月5日 6月19日 7月 中央:9月、地区:未定 6月(北日本図書館大会) 9月～2月	
	学校等への支援、学習の場の提供	1 総合的な学習の時間・探究学習等への支援 2 学校図書館の本の整理や利用環境整備へのアドバイス 3 インターンシップ等の受入	通年	

(様式2)

令和8年度主要施策(概要)

公所名 岩手県立博物館

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
(1) 調査研究活動と効果的な資料収集活動の推進	・本県の自然や人間の営みの証拠となる資料を収集し、適切に保管・管理を行い将来へ引き継ぐ。 ・館活動の根幹である調査研究の成果を幅広く公表する。
(2) 利用者に親しまれる常設展示や魅力ある展覧会の開催	・調査研究の成果や収集資料の状況を展覧会やホームページ等で発表し、県民の生涯学習等を積極的に支援する。 ・来館者や各種事業参加者へのアンケートや出前講座、SNS等を通じて県民のニーズを把握する。
(3) 学校教育と博物館との連携強化など教育普及活動の充実	・小中学校・高校への学習支援を積極的かつ継続的に行い、博物館利用に繋げる。 ・学校教員と博物館職員との人的つながりも活かし業務連携を推進する。
(4) 全国博物館大会の開催受け入れ	・震災から15年の節目を迎える今年度、本県のこれまでの被災文化財救済の取組や、被災した博物館等の復旧・再開、これらの経験に基づく文化財防災の取組等について、全国からいただいた支援への感謝とともに発信する。
(5) 被災文化財等の救援活動及び保存・管理体制の構築	・陸前高田市で被災した博物館資料の再生に向けて支援を継続する。 ・県内外における被災文化財の救出、保存・管理等の支援の取組を継続し、文化財の防災力向上等に貢献する。

2 事業計画について(重点事業等)

領域	事業等名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
展示	特別展示 (企画展・テーマ展)	「岩手の絶滅危惧種とネイチャーポジティブ」	3/28～5/24	県民
		「すこやかであるために―円環する生・老・病・死―」	6/20～8/16	
		「化石のレプリカ展 We are NOT fakes!」	9/26～12/6	
		「日本一多い岩手の土偶」	1/9～3/7	
		「千田家文書の世界(仮)」	3/27～5/16	
教育普及	各種講座、学校教育との連携等	・講演会、地質・自然観察会、日曜講座等 ・教材用資料の貸出、出前講座・体験教室等	随時	県民
資料収集 保管	公開承認施設更新	資料の適切な保管環境を維持する取組を継続し、公開承認施設の更新を行う。	令和9年2月	—
外部連携	第74回全国博物館大会 (日本博物館協会主催)	大会テーマ(案)「地域の未来と博物館～東日本大震災発生から15年を経て～」 基調講演／フォーラム／シンポジウム／エキスカッション／他	11/18～11/20	県内外博物館関係者
受託事業	科学分析保存処理	陸前高田市の東日本大震災津波被災資料の修復等	通年	陸前高田市立博物館

(様式2)

令和8年度主要施策(概要)

公所名 岩手県立美術館

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
1 県民の共通財産としての将来への継承	岩手県らしくかつ県民のニーズに沿い、高い集客性が見込める企画展を開催し、多くの県民に対して、国内外の優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、県民の文化芸術に対する理解を深める。 また、各展覧会に関連付けた講座等を実施し、県民の文化芸術に対する興味・関心を高める。 (1)企画展及びコレクション展の観覧者数(62,000人)の達成 (2)教育普及事業の参加者数(9,000人)の達成 (3)来館者の総合満足度90%以上の達成
2 調査・研究活動等の推進による本県評価の向上	芸術文化振興の拠点的機能を担う施設として、職員の人材育成・力量向上を図り、美術品の収集、調査・研究、展示・普及活動等の充実を図る。 (1)美術品の適切なタイミングによる収集、計画的な修復保存 (2)調査・研究成果等に基づく岩手発の独自企画展の開催 (3)計画的な美術史研究や新規の教育事業開発の推進
3 県民が等しく鑑賞・参加・創造できる環境の整備	優れた美術品の鑑賞や制作活動を県民が体験できる環境を整備する。 (1)効果的で訴求力のある広報活動の展開 (2)県民ニーズに沿った魅力ある自主事業の実施 (3)収蔵作品データの公開利用の推進

2 事業計画について(重点事業2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期 日・期 間	対 象・人 数
展示事業	1 企画展	(1)藤田嗣治 7つの情熱 (2)小林徳三郎 (3)芥見下々『呪術廻戦』展 (4)ヘンリー・ムーア展 (5)トーベとムーミン展 (6)アートフェスタいわて2026	4/17～6/7 6/20～8/23 9/12～11/8 11/21～12/13 12/26～2/28 3/13～3/28	一般
	2 コレクション展 〔収蔵作品の展示替え(年4回)〕	(1)第1期特集 村上善男 (2)第2期特集 新収蔵作品公開(澤田哲郎中心) (3)第3期特集 新収蔵作品公開(大宮政郎、柵山龍司) (4)第4期特集 本田健	5/1～7/12 7/17～10/12 10/18～1/24 1/30～4/18	一般
教育普及活動事業	1 展示関連	展示解説(ギャラリートーク等)、関連講座等	通年	一般 ※ 内容により 対象限定あり
	2 美術普及	スタジオプログラム(ワークショップ)、美術講座等		
	3 アウトリーチ	出前授業(対面・リモート)、美術関連研修への講師派遣		
	4 来館者対応	美術館探検「てくてくツアー」、「ファミリータイム」等		

(様式2)

令和8年度主要施策(概要)

公所名 岩手県立県南青少年の家

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
地域社会と学校教育の連携強化とアウトリーチの展開	教育事務所、市町、学童保育所等の施設利用や出前講座を深化させ、 地域の教育課題の解決を支援する。
「第3の居場所」としての機能拡大	学校や家庭とは異なる子どもの居場所として、対象を限定しない社会教育施設の経営を行い、長期休業中の学童・放課後子ども教室受け入れや適応支援教室等への体験活動支援を行う。
危機管理体制の構築	熱中症対策や熊対策を徹底し、利用者へ情報を共有し、危機管理意識を高めて 安全・安心な施設利用 につなげる。
招致・共催型スポーツ事業による地域活性化	地域のスポーツ振興を目指す団体と連携し、施設を拠点としたスポーツ大会の招致を強化。施設は後援および会場提供を行い、競技環境をバックアップすることで、 広域的な交流拠点としての機能を高める。

2 事業計画について(重点事業2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期日・期間	対象・人数
受託	通学合宿	ノーメディア 等の日常とは異なる環境の中で共同生活や体験活動・学習活動を行わせることを通し、基本的な生活習慣の育成を図るとともに、人と関わる力や集団生活のマナーを身につけさせる。 〔共同生活体験、自主学習活動等〕	11月8日(日) ～11日(水) 3泊4日	金ケ崎町内の小学5・6年生児童計30名程度
受託	県南は～とふる♡Day 【スクラム編】	日常の学習と異なる活動の提供を通して、体験の機会を拡大させるとともに、参加者相互の交流を図る。 〔創作・ニュースポーツ体験等〕 ※【チャレンジ編】は通年対応で出前依頼も可能。学校不適応児童生徒対象	12月5日(土)	特別支援学校 および学級在籍児童と保護者 10家族 20名
受託	みどりのキャンパスキャラバン (出前講座)	来所しての活動と同内容のものを地域において行うことを希望する団体に対し、 訪問しての活動を提供することで体験活動の拡充と市町、地域団体の支援につなげる。	通年	子どもから大人まで(子ども会、自治会、親子レク等)

(様式 2)

令和 8 年度主要施策 (概要)

公所名 岩手県立陸中海岸青少年の家

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
市町村自治体や関係機関・地域団体との連携・協働の推進	(1) 自治体(県・市町村)と連携した事業展開の推進 (2) 自治体(県・市町村)が運営する事業や講座等での社会教育活動の支援 (3) 自治体(県・市町村)が開催する研修会への参加と関係機関・地域団体とのつながりの強化
家庭教育及び子育て支援	(1) 各事業の実施における県社会教育行政施策の事業内容の反映 (2) 家庭教育及び子育て支援に関する活動や講話等を取り入れた事業構成での実施
教育振興運動への取組	(1) 全県共通課題「体験活動の充実」への取組としての多様な体験活動の実施や学校以外の地域での社会教育活動の支援 (2) 「誰一人取り残さない学びの保障」に向けたハートフルキャラバンの利用の充実

2 事業計画について(重点事業 2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期 日・期 間	対 象・人 数
受託	海釣り道場①②	・山田町との共催により、それぞれの強みを生かした企画運営を行う。 ・海での親子共同体験活動を通して、親子のふれあいを深める。	① 5 月 9 日 ② 10 月 17 日	対象：中学生までの子を持つ親子 定員：各 50 名程度
受託	親子 de 沢登り ～週末冒険クラブ～①②	・沢登りを通して、親子での野外活動を体験する機会を提供する。 ・「家庭教育ワンポイント講座」を行い、子育てに役立つ情報を提供する機会を作る。	① 9 月 6 日 ② 9 月 13 日	対象：小中学生の子をもつ親子 定員：10～15 組程度
受託	キャラバン(出前講座) ・やまびこキャラバン ・ハートフルキャラバン	・やまびこキャラバン 幼児からシニアまで、創作やニュースポーツをはじめ、もちつきや震災伝承プログラムなど様々な体験活動を提供する。 ・ハートフルキャラバン 学校や教室へ足が向かない児童・生徒、特別な支援が必要な児童・生徒を対象に、ニーズに合わせた学習支援、創作やニュースポーツなどの体験活動を提供する。	通年	やまびこキャラバンは定員が概ね 5 名以上 ハートフルキャラバンは定員なし

(様式2)

令和8年度主要施策(概要)

公所名 岩手県立県北青少年の家

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
・自然環境や施設の特性を生かした豊かな体験活動の充実	・自然環境や施設の特性を生かした研修内容の充実、団体の計画に対応した活動支援の充実及びねらいの精査、内容の吟味による主催事業の充実 ・事業の運営形態の工夫、特別な支援や配慮の充実、活動機会の提供 ・自然環境や施設の特性を生かしたダイナミックなプログラムによる教育キャンプの充実
・親子のふれあい、家庭教育支援、保護者間交流、及び家庭教育の充実に資する学習機会の提供	・体験活動の大切さについて保護者や地域の認識を高めるプログラムの工夫と積極的な周知 ・体験格差の解消に向けた取組 ・体験活動の効果的な指導等についての日常的な研修や打合わせ、情報共有の実施
・多様なニーズに対応した活動支援や居場所づくり	・スペシャルニーズへの適切な対応や特別な支援の在り方、多様な利用者の対応 ・特別支援、不登校児童生徒とその保護者及び関係機関への施設の周知と利用案内 ・域内社会教育関係諸会議での情報交流や連携方策の検討と事業等の協働、支援

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
受託事業	サマーチャレンジキャンプ	・小学4年生から中学生を対象とした異年齢の中期キャンプと自然体験をとおして、主体性、協調性、やり遂げようとする粘り強さを育み、しなやかにたくましく生きる児童・生徒の育成を図る。 ・市町村との協働連携により、地域のよさや楽しみ、震災防災学習をプログラムに位置づけ、感動体験や地域の方との交流を経験させ、自他の命を尊重する心を養う。	令和8年 8月5日(水)～ 8月9日(日) 4泊5日	小学校4年生から中学校3年生の児童生徒

受託事業	親子でデイキャンプ	・年長児、小学１年生とその家族を対象に、焚火や調理体験、野遊びや自然体験を通じて、親子のふれあいを深める。 ・幼児・児童は感じる力を引き出す「森のようちえん」の手法で森を思い思いに散策する。 ・保護者は「おしゃべりティータイム」として、体験活動と子育てに関するワークショップを行い、子育てについて交流を図るとともに、子どもの日常的な体験活動を充実する方法について考えを深める。	令和８年 ６月１３日(土) ６月１４日(日)	幼児（年長）及び小学校１年生児童
受託事業	しゅくだいバス（夏休み・冬休み）	・子どもの居場所づくりの一環として、長期休業中の児童を各市町村からバスで集め、宿題やお楽しみの時間、自由時間を過ごししながら、学習や活動に主体的に取り組もうとする意欲を高める。	令和８年 ７月下旬 １２月下旬	小学校全学年

(様式 2)

令和 8 年度主要施策 (概要)

公所名 岩手県立野外活動センター

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
○施設利用の拡充	○新規事業の開発と実施(主催、自主事業の充実に具体例を示す) ○利用向上に向けて、受入態勢の見直しおよびニーズの把握
○施設及び設備環境の整備	○施設設備の状況を整理し、効率の良い整備・修繕の実施 ○利用者の利用環境を向上するための施設設備の更新(エアコン設置等) ○今後の施設設備更新に向けて、生涯学習文化財課との連携促進
○主催、自主事業の充実	○BBQ 検定の実施(10 月 11 日実施予定) ○通学合宿の日程追加(陸前高田市教育委員会と協議中) ○新規自主事業の開発(ピザづくり、火のプログラム等)

2 事業計画について(重点事業 2～3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期 日・期 間	対 象・人 数
自然体 験活 動 事業	BBQ 検定	野外での焼肉体験ではなく、本格的な BBQ 技術を学べます。火の扱い方、肉の焼き方を実践を通して学び、受講後には資格を受け取ることができます。	10/11(日)	高校生以上
教育関 係事業	通学合宿	同じ中学校区にある他校の同学年児童との共同生活で、小小連携の一助を担い、新しい仲間との交流を図るとともに来春の中学校進学への安心感につなげる。	検討中	陸前高田市 西部 4 校